

このメールマガジンは、HACCP 実践研究会の講習会等に参加いただいた皆様、および名刺交換させていただいた方々に配信しています。

HACCP メールマガジン 96号より始めた、「HACCP 義務化の流れ」解説如何でしょうか
メールマガジン読者の皆様に、お役に立てる最新ニュースを配信できるよう努めます。

**** 特報 お見逃しなく 定員 70 名 申込み先着順受付です ****
1月10日現在残席わずかになりました！！
1月26日（木）午後 厚生労働省の HACCP 担当の先生にご講演いただきます。
概略と申込みは下記 ◆1 をご確認ください。

◆ ◆ HACCP 義務化の流れを易しく解説いたします ◆ ◆
メールマガジンのアーカイブと補足資料をホームページに掲載しました。
<http://www.haccp.gr.jp/> ご利用ください。

◆ シリーズ解説の予定 ◆

1. HACCP 義務化とはどういうこと ・ ・ 96号（3月配信）
2. HACCP 導入のポイント ・ ・ 97号（4月配信）
3. HACCP 義務化への対応 ・ ・ 98号（5月配信）
4. 厚生労働省と農林水産省の取組み状況 ・ ・ 99号（7月配信）
5. HACCP 化の事例紹介 1 ・ ・ 100号（11月配信）
6. 厚生労働省の検討会中間とりまとめ ・ ・ 101号（11月配信）
7. 社員食堂に於ける HACCP 厨房の実施例 ・ ・ 102号（12月配信）
8. フードバレーとかち 中小企業の導入事例 ・ ・ 103号（本号）

◆ フードバレーとかち 中小企業の HACCP 導入事例
北海道・十勝・帯広には HACCP を導入した中小企業が多数存在しています。
2016年10月には、各企業がどのような試行錯誤の末に課題を乗り越えたかを
事例で紹介した「フードバレーとかち 中小企業の HACCP 導入事例集」が帯広市
商工観光部工業労政課から発行されました。本号ではリンクの許可をいた
だき掲載いたします。
URL : <http://www.foodvalley-tokachi.com/?p=11964>

本号では、当研究会の HACCP 導入研修会で講師をお願いした、帯広保健所
技術主幹 通山志保様に、「北海道 HACCP 評価事業」の取り組みから見て
きたことを寄稿していただきました。

**** 十勝・帯広の HACCP 導入にかかる取り組み ****
記載 十勝総合振興局保健環境部保健行政室生活衛生課
(帯広保健所) 技術主幹 通山志保

HACCP 義務化を見据えて、北海道でも 2002 年から HACCP 導入に取り組む食品
事業者に対して「北海道 HACCP 評価事業」など様々なアプローチを展開している。
筆者は平成 26 年 4 月から十勝に赴任し、産官学の連携により HACCP 導入に
意欲的な事業者が増加してきているので、かかる取り組みから分かった
HACCP 導入への考え方(または声)を紹介する。

1. 国内の現状では…

国の最終取りまとめでは、「中小規模層の事業者における普及が進んでい
ない。」とあるが、小規模事業者（従業員 2～3 名を含む）の方が、HACCP

導入の意思統一がたやすく、導入が比較的容易でその後の維持管理についても支障ないことがわかった。

2. 導入が進まない理由として…

「HACCP 導入のメリットが感じられない。」「コストがかかる。」「指導・助言できる人材不足。」等が挙げられているが、導入側も支援する側も頭を切り替えること（知識の習得、導入事例の聴取など）と、支援する側の環境作り（セミナーの実施、個別相談に対応など）で容易に解決が出来ることがわかった。

3. そもそも大前提として必要なことは…

何よりもトップの「取り組む意志（やる気）」。そのきっかけ作り（ある業者は「やる気スイッチ」と表現）をするのが支援する側の大きな役割。

4. メリットとは…「何をメリットとを感じるか。」

十勝の事業者の声を紹介する。生の声を紹介することも行政の重要な役割。

- (1) 安全なものを作ることで自分たちの仕事に自信が持てるようになった。
- (2) 危機感。今までの「大丈夫」が偶然の産物だったかもしれないと気づいた。
- (3) 従業員の意識が変わった。
- (4) お客様、取引業者からの問合せ（苦情、クレーム含む）に迅速に対応できる。
- (5) 販路拡大。取引業者との商談がスムーズになった。

メリットとして「経済的な効果」を追求しがちであるが、導入企業がそれを求める優先順位は低い。

5. 十勝の事業者は特別か…

決して順風満帆な恵まれた施設ばかりではなく、HACCP 選任の担当者がいる施設は皆無で、担当が途中で辞めてしまったなど苦労も他と変わらない。

6. 今、十勝では…（まとめ）

「HACCP はやらなければならない。」と事業者は思っている。その思いを相談する場所と思いを同じくする仲間（事業者）と共に学ぶ機会がある。こうした環境を関係機関の連携により構築できたことが何よりも大きいと感じている。

事例紹介は「フードバレーとかち 中小企業の HACCP 導入事例集」（URL は上記）を参照願います。

当 HACCP 実践研究会は、「日本から食品事故を無くす」ために基本的で、かつ国際的なシステムである HACCP システムの普及を目指して活動しています。

5年後には HACCP 義務化が開始される見方が強くなりました。食品企業は幹部、従業員とも HACCP に関する正しい知見が必要です。当会は、実践的な HACCP 導入を目指して、人材育成研修会、設備改善指導、HACCP 自主認証および指導・支援などの事業を行っています。ぜひご相談下さい。 e アドレス info@haccp.gr.jp
